

目的 各種ファッション素材が出回っている昨今、スカートやパンツのウェスト部のベルト芯として用いられるインサイドベルトにも、副素材として要求される要素は少なくない。本研究では、被服構成時におけるインサイドベルトの消費的性能について、実験方法も含めて検討した。

方法 試料には、30cm幅の市販のインサイドベルト10種（接着・伸縮タイプを除く）を用いた。浸漬時間：2種、洗濯方法：4種、洗濯回数：3種、の条件のもとに、厚さ・重さ・収縮・剛軟度・曲げ剛さ・荷重伸長率を測定し、寸法安定性及び表面形状の変化を調べた。次に被服構成時におけるインサイドベルトの取り扱い易さ（針の通り・くせとり）と硬さに関する触覚的評価についての官能検査を行い、各物性との関係を見た。

結果 洗濯による収縮は、ナイロン100%素材の試料以外はすべての試料にみられた。中でも唯一両耳のないスパンレーヨン素材の試料は、17%もの収縮をみせたが、他の試料では、水洗いでは約0.3~5.7%間の収縮であった。剛軟度・曲げ剛さについては、30cmという限られた幅でしかも芯地としての硬さ・反発力をもつインサイドベルトのための適当な測定方法が見当らず、剛軟度はおもりに用いた「応用ハートループ法」、曲げ剛さはスプリングマイクロメーターを用いた独自の試料の特性をとらえた。官能検査では、従来からあるごく一般的な変化平織のビニロン素材のものが好まれる傾向にあった。このインサイドベルトを用いる場合には、5回のくり返し水洗いで約3%収縮するということを念頭において、あらかじめ地詰あるいはゆとりを入れるなどの処置をしなければならぬ。